

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週：令和4年第50週 令和4年12月12日(月) ～ 令和4年12月18日(日)

今週：令和4年第51週 令和4年12月19日(月) ～ 令和4年12月25日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	① 陽性者数	① 総数	14,457人	14,253人	↓	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	11,814人	11,693人	↓		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	2,643人	2,560人	↓		
	② 対人口10万人（総数）	938.8人	925.5人	↓	1,433人	令和4年第30週	
	③ 前週との増加比（総数）	1.22	0.99	↓	18.0	令和4年第1週	
④ 陽性率 ^{※3}		57.8%	56.5%	↓	64.3%	令和4年第30週	
医療提供体制	⑤ 入院患者（陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	297人	315人	↑	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	61.2%	64.9%	↑	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥ 重症患者（陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	10人	7人	↓	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	14.5%	10.1%	↓	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

<モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	前週	直近1週間	累計
	R4.12/12 ~ R4.12/18	R4.12/19 ~ R4.12/25	R3.3/11 ~ R4.12/25
α 株（アルファ）	0件	0件	203件
β 株（ベータ）	0件	0件	0件
γ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
δ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	6件	0件	497件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	0件	0件	8件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	55件	24件	669件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

第51週（令和4年12月19日～12月25日）

第51週（今週）は、陽性者数は9週間ぶりに減少しており、前週との増加比は前週の1.22から今週0.99と減少し、9週間ぶりに1.0を割っています。入院患者数は、前週297人から今週315人に増加しましたが、入院中の重症患者数は前週10人から今週7人に減少しています。

<感染の状況：直近1週間>

① 医療機関から報告された陽性者数は、第39週3,198名から、第42週2,203人まで4週連続して減少しましたが、第43週2,676人から、4,606人→5,726人→6,781人→8,007人→9,105人→9,834人→11,814人と50週まで8週連続して増加しましたが、第51週（今週）は11,693人と9週間ぶりに減少しました。

セルフテスト陽性者数は第39週495人から、399人→459人→378人と推移しましたが、第43週450人から、814人→1,047人→1,249人→1,559人→1,813人→2,062人→2,643人と50週まで8週連続して増加しましたが、第51週（今週）は2,560人と9週間ぶりに減少しました。

医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第39週3,693人から、第42週2,581人まで4週連続して減少しましたが、第43週3,126人から、5,420人→6,773人→8,030人→9,566人→10,918人→11,896人→14,457人と8週連続して増加しましたが、第51週（今週）は14,253人と9週間ぶりに減少しました。

② 対人口10万人あたりの陽性者数は、第39週239.8人から、第42週167.6人まで4週連続して減少しましたが、第43週203.0人から、351.9人→439.8人→521.4人→621.2人→709.0人→772.5人→938.8人と8週連続して増加しましたが、第51週（今週）は925.5人と9週間ぶりに減少しています。

③ 前週との増加比は、第39週0.81から、0.78→0.97→0.92と推移し、第42週まで4週連続して1.0以下となっていました。第43週は1.21、第44週は1.73となりましたが、第45週1.25から、1.19→1.19→1.14→1.09と第49週（前週）まで5週続けて減少傾向にありました。第50週（前週）は1.22と増加に転じていますが、第51週（今週）は0.99と再び減少に転じ、また9週間ぶりに1.0を下回っています。

④ 検査陽性率は、第39週40.2%から、36.2%→36.6%→34.8%→37.7%→51.3%→49.7%→50.5%→56.7%→54.6%→57.1%→57.8%と推移し、第51週（今週）は56.5%となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日12月25日現在>

⑤ 入院中の患者数は、令和4年第1週23人から毎週増加、第7週335人をピークとして第24週24人まで減少しました（第6波）。第25週41人から再び毎週増加し、第31週368人をピークとしてその後第43週61人まで、12週連続して減少しました（第7波）。第44週122人から三度増加傾向となり、146人→165人→205人→223人→258人→297人、そして第51週（今週）は315人と8週連続して増加しています。

入院病床使用率は、令和4年第1週4.8%から急増し、第7週70.2%をピークとして第24週4.9%まで減少しました（第6波）。第25週から毎週増加し、第31週75.9%をピークとしてその後第43週12.6%まで12週連続して減少しました（第7波）。しかし、第44週25.2%から、30.1%→34.0%→42.3%→46.0%→53.2%→61.2%、そして第51週（今週）は64.9%と8週連続して増加しています。

確保病床数は現在合計485床です。

⑥ 重症入院患者数は、令和4年に入った第1週は0人でしたが、第2週1人から第8週30人まで増加してピークとなりその後減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者0人が5週連続しました（第6波）。しかし、第26週から再び増加が続き、第32週14人となりました。第33週からは毎週減

少し、第40週から第43週の4週間は1人となりました。(第7波)。第44週・第45週の3人から、第46週は1人と減少しましたが、第47週・第48週は4人、第49週は11人と増加し、第50週(前週)は10人、第51週(今週)は7人と減少しています。

重症病床使用率は、本年第3週4.3%から増加が続き、第8週の43.5%が第6波のピークとなり第9週2.9%まで減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者数0人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。しかし第26週2.9%から増加が続き、第32週の20.3%を第7波のピークとして減少し、第40週から第43週は1.4%となっていました。第44週・第45週は4.3%と増加し、第46週は1.4%と減少しましたが、第47週・第48週は5.8%、そして第49週は15.9%と増加し、第50週(前週)は14.5%、第51週(今週)は10.1%と減少しています。

重症者の確保病床は現在69床です。

<変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第51週(今週)は、オミクロン株24件中、BA.5系統が24件でした。

本市における医療機関報告分とセルフテスト陽性者分を合わせた陽性者総数は、第42週2,581人から第43週3,126人と増加に転じ、以降第50週(前週)14,457人まで8週連続して増加していましたが、第51週(今週)は14,253人と、若干ですが9週間ぶりの減少となっています。

前週との増加比は第39週から第42週まで4週連続して1.0以下となっていました。第43週は1.21、第44週は1.73と増加しましたが、第45週1.25から第49週1.09まで5週続けて減少傾向にありました。第50週(前週)は1.22と増加しましたが、第51週(今週)は0.99と再び減少に転じています。増加比が0.99とわずかではありますが、1.0を下回ったのは9週間ぶりです。

入院患者数、入院中の重症患者数は、総陽性者数に1週間遅れて第44週から増加に転じ、その後入院患者数は今週を含めて8週続けて増加し、第51週(今週)は315人でした。重症入院患者数は、第46週1人、第47週・第48週4人、49週11人と増加しましたが、第50週(前週)10人、第51週(今週)7人と減少しています。

第51週(今週)の感染の状況を示す数字は、陽性者総数をはじめとしてわずかではありますがすべて減少となっています。医療提供体制では、入院患者数は今週も増加しましたが、入院中の重症患者数は減少となっています。

重症患者ができるだけ発生しないように、発生しても医療で受け止められる(入院ができる、経過観察ができる)体制を取れるようにしておくことは、極めて重要なこととなります。そして新型コロナウイルスの医療のみならず、通常の医療・救急医療・お産などがこれまで通りに行われ、今の生活の状況を維持するためには、お一人お一人に基本的な感染症の予防に気を付けていただき、陽性者数の増加をできるだけ止めていくことが大変重要になります。

今年も残すところわずかとなってきております。暮れから新年に向け、人の動きや集まりの機会も増加する時期ですが、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、あまり大人数にならぬようゆっくりと過ごされますようお願いいたします。一方、戸外や風通しの良い所、人と人の間隔が十分あいているような所では、マスクを外し、良い空気を吸う、体を動かすといったことも健康のために大切です。大声を避ける、密な状態を避けることができれば、必ずしも「黙食」である必要もありません。

毎冬話題となる季節性インフルエンザは、一昨シーズン・昨シーズンはほぼ流行的発生はみられませんでした。今シーズンは国内外で発生数が増加しています。本市では、第50週(前週)に、流行開始の目安であるインフルエンザ定点あたり1.00人を超え、1.64人となりました(川崎市感染症週報第50週：<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/22-13-8-11-4-1-0-0-0-0.html>)「今、何の病気が

流行しているか!」)。インフルエンザも新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。できるだけ三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどになります。また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には無理せず体を休めることが大切です。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザに限らず早めの受診が必要です。かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。

どうぞ良いお年をお迎えください。